

そもそも私が湘現会と出会ったのは平成25年の春であった。それも「湘現ハーモニカクラブ」に入会した後のことであった。平成24年に仕事を辞めて全くの年金生活に入ってから1年が経過した時に、趣味として楽器演奏に馴染みたいという思いが募ってきたのであった。楽器といっても自分が特別の技能を持ち合わせているわけではないのであったが、現役で仕事をしていた職場でジャズバンドの演奏活動をしている連中がいて、いかにも楽しそうに演奏し、また聴く者を楽しませている光景に接していた経験から、その思いが強くなってきたのであった。そこで自分で扱える楽器は何があるだろうかと思案したところ、小学生から高校生の頃まで吹いていたハーモニカを持っている事を思い出したのであった。ハーモニカなら自分でやっていけるのではないかと考えたのであった。今から思うと実にハーモニカを甘く見ていたのであったが。そこで、キッとハーモニカクラブが世の中にあるはずだとの思いで、インターネット検索してみたところ、果たして「湘現ハーモニカクラブ」がヒットしたのであった。そこで、早速事務局をしていた今は亡き浦山さん（昨年11月に急死）に連絡を取り入会を決めたのであった。入会してみても先ず始めに驚いたのが、ハーモニカが自分の持っていたC調1本では全く足りず、C#、A、Am、G調などの種類の異なるハーモニカが必要だという事、また楽譜が数字で表されるという事を当時の代表の保多さん（3年前に死亡）から教わった事であった。そして「湘現ハーモニカクラブ」が湘現会の分科会であるという事を全く知らないでいたのであったが、入会して練習を続けているうちに、その事実を知った。キッカケは湘現会という親組織に入会している者でなければ翌年の湘現会の新年会に出席してハーモニカ演奏が出来ないことを告げられ、湘現会に入会したのであった。始めから湘現会の存在を知る手掛かりがあれば、こんなことも無かったであろう。また自分にこういった組織を探そうとする動機付けがあればダイレクトに湘現会を見つけ出す事が出来たであろう。ともあれ、湘現会に入会してみて、湘現会が大変多岐に亘る分科会をもって活動していることを知ると共に、会員の皆さんが高齢にも拘わらず非常に元気で活躍されていることに感心しました。現役時代は仕事でも遊びでも、どうしても職場・関係先の人間関係に限定され、思考・行動パターンも狭まってしまうという弊害がありますが、私も湘現会での諸々の集まりや、ハーモニカクラブのメンバーと共に行う湘現会の新年会や「鍋の会」などでの演奏を通して広く会員の方々と接することによって、皆さんの色々な生の考え方、生き様を知る機会が増え、更にはボランティア演奏を通して現在の社会状況の一端に触れることなどで、自分の視野が広がったという実感がありますし、自分も停滞した生活に甘んじてはいけないという自覚も強まり、日々の生活が惰性に陥ることが防げているように感じています。これからも会員皆様からの刺激を受けてこれからの自分の人生が更に有意義となるように励みたいと思います。